

# 河北潟鳥類リスト追加記録種の報告

川原奈苗<sup>1</sup>・高橋久<sup>1</sup>・中川富男<sup>2</sup>・丹羽量<sup>3</sup>・丹羽千枝子<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 河北潟湖沼研究所, 〒929-0342 石川県津幡町北中条ナ9-9

<sup>2</sup> (公財) 山階鳥類研究所協力調査員

<sup>3</sup> 石川県かほく市

要約：干拓地を含む河北潟および河北潟湖岸域で確認された鳥類は、国営河北潟干拓事業開始の1963年から2013年3月までの記録として、21目55科275種が報告されている。筆者らは、2015年～2017年に、サンコウチョウ、ハマビバリ、ハシグロヒタキ、エゾビタキ、コサメビタキの5種類を新たに確認した。このうち3種類は森林性の種で、9月に河北潟干拓地の林帯で確認された。河北潟干拓地では、落葉広葉樹の自生種やそのほかの植栽樹木が高さ3～10mほどに生長している。これまでに確認されていなかった種類がほぼ同時期に3種類も確認されたことから、河北潟の森林性の鳥類の渡りの中継地としての役割にも今後注目していく必要があると思われる。

キーワード：河北潟、石川県、干拓地、鳥類リスト、防風林帯、渡り鳥、中継地

## はじめに

河北潟は、石川県金沢市の中心部から北へ約10kmの位置にある海跡湖である。もともと海水が流入する約23km<sup>2</sup>の汽水域であったが、1963年に着工された国営河北潟干拓建設事業により、湖の約2/3の面積が農地となり、本湖（調整池）約5.96km<sup>2</sup>、東部承水路、西部承水路が残されるとともに、淡水化された。河北潟の西方は日本海に沿って内灘砂丘が延び、東方には河北平野の水田がひろがる。東部承水路から東へ約2～3kmで、宝達丘陵の山麓に至る。宇ノ気川河口より北東約12kmには能登半島最高峰の宝達山がそびえる（図1）。河北潟および干拓地を中心とする東西10kmの範囲は、日本海、砂丘、水田、河川、山林などの多様な環境が存在している。これらの多様な環境を結ぶ水域として、潟への流入河川である宇ノ気川、能瀬川、津幡川、森本川、金腐川、大宮川、海への流出河川である大野川が存在する。これらの河川河口域や川岸には、多量なりとも植生が認められる（白井ほか、2005；川原ほか、2007、2008；川原・高橋、2009、2010）。

河北潟の鳥類については、国営干拓事業開始の1963年から2013年3月までに河北潟で確認された種のリストが、河北潟湖沼研究所が発行した「河北

潟レッドデータブック」に付録資料として掲載されている（中川、2013）。このリストは、本論文の著者の1人である中川によりまとめられたものであるが、河北潟の本湖（調整池）、河北潟放水路の防潮水門の内水面側、東西の承水路、河北潟干拓地、湖岸、及び湖岸に近接する周辺の低湿地帯を範囲とし、著者が現地を確認したもののほか、聞き取りや文献の記録により得られた情報に基づき、21目55科275種の鳥類が報告されている。またこれより以降に、ヒメコウテンシが金沢市に含まれる河北潟周辺水田にて、オオルリ雄2個体が河北潟に面した金沢市八田にて報告されている（日本野鳥の会石川、2014）。

このほか、本州初記録として、迷鳥のヨーロッパムナグロの河北潟干拓地への飛来が報告されている（中村ほか、2013）。なお、河北潟における鳥類の確認記録は、日本野鳥の会の野鳥年鑑によって長年報告されているが、2017年6月時点において、報告されている情報は2013年の記録までとなっている。

今回、河北潟の本湖と河北潟干拓地を含む周辺の低湿地帯において、これまでの報告に記載されていなかった種類が2015年～2017年に新たに確認された。追加記録種として5種類を報告する。

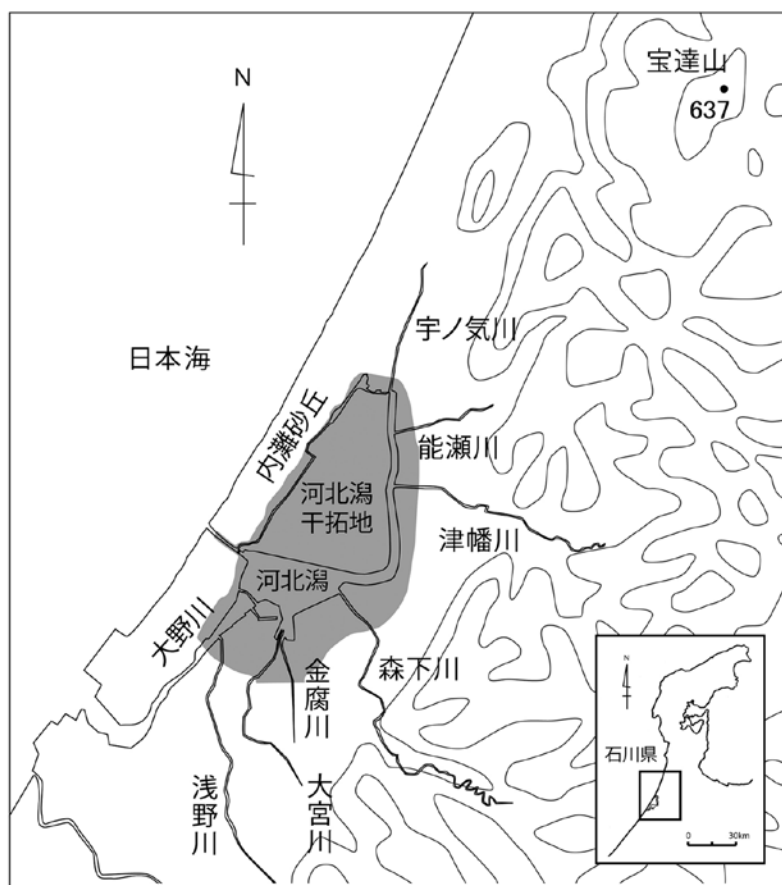


図1. 河北潟および周辺地域. 河北潟鳥類リストの対象とするエリアを網掛けで示した.

### 追加記録種

- |   |  |
|---|--|
| <p>サンコウチョウ <i>Terpsiphone atrocaudata</i> (Eyton, 1839)<br/>                 カササギヒタキ科 サンコウチョウ属<br/>                 2015年9月15日, 石川県河北郡内灘町湖西の河北潟干拓地の西端, 正面堤防の堤外にある落葉広葉樹林にて, 1個体が確認された. (記録: 川原奈苗)</p> <p>ハマヒバリ <i>Eremophila alpestris</i> (Linnaeus, 1758)<br/>                 ヒバリ科 ハマヒバリ属<br/>                 2015年1月5日, 石川県河北郡津幡町の津幡川下流左岸側の農道にて1個体が確認された. (記録: 丹羽 量, 丹羽千枝子)</p> | <p>ハシグロヒタキ <i>Oenanthe oenanthe</i> (Linnaeus, 1758)<br/>                 ヒタキ科 サバクヒタキ属<br/>                 2017年5月29日, 石川県河北郡内灘町の蓮湖渚公園の駐車場端の裸地にて, 雄の成鳥1個体が確認された. (記録: 中川富男)</p> <p>エゾビタキ <i>Muscicapa griseisticta</i> (Swinhoe, 1861)<br/>                 ヒタキ科 サメビタキ属<br/>                 2016年9月21日, 石川県かほく市湖北の河北潟干拓地の北東端の堤内, 車道沿いの防風林帯にて, 1個体が確認された. (記録: 川原奈苗)</p> <p>コサメビタキ <i>Muscicapa dauurica</i> Pallas, 1811<br/>                 ヒタキ科 サメビタキ属<br/>                 2015年9月14日, 石川県河北郡津幡町潟端</p> |
|---|--|

の堤外、河北潟東部承水路の湖岸に自生する樹木にて、3個体が確認された。(記録：川原奈苗)

2015年9月15日、石川県河北郡内灘町湖西の河北潟干拓地の西端、正面堤防の堤外にある落葉広葉樹林にて、1個体が確認された。サンコウチョウが確認された林帯と同じである。(記録：川原奈苗)

2015年9月16日、石川県金沢市湖南の河北潟干拓地、正面堤防沿いの電線上にて1個体が確認された。(記録：高橋 久)

## 考察

今回、新たに確認された5種類を追加し、さらにその後の情報の整理により、河北潟の本湖と河北潟干拓地を含む周辺の低湿地帯で1963年以降に記録された鳥類は21目57科283種となった(中川・川原, 2017)。

これまでの河北潟の鳥類リストの特徴として、山本ほか(2000)の調査報告においては、168種類のうち水鳥は92種類が記録され、とくに越冬期に20,000羽を超えることから、水鳥の渡来地として評価されるべき湿地であること、河北潟の鳥類相の特徴として3点、1)カモ目、チドリ目など水鳥の個体数が多い、2)タカ目のトビ、スズメ目のカラス類やツバメ、スズメ、ムクドリなどの個体数が多い、3)それ以外の陸鳥の個体数が少ないこと、が述べられている。しかし、その調査では水鳥を中心に調査をおこなったことから、陸鳥についての考察はおこなわないとの但し書きがそえられている。

今回確認された5種類のうち、ハマヒバリは、日本には数少ない冬鳥として海岸や河口などの草が疎らに生えた草地に渡来することが知られる。ハシグロヒタキは、本来の分布域や渡りのコースから外れて希に日本に渡来するもので、日本では迷鳥とされている。サンコウチョウ、エゾビタキ、コサメビタキの3種は、主に林に生息する種類で、確認された時期から渡りの移動中による個体と考えられる。河北潟干拓地では、防風林帯として植栽されたクロマツの大半が2012年前後に枯死した一方で、クロマツが枯死したあとの防風林帯や、河北潟流入河川河口域、湖岸帯において、落葉広葉樹の自生種やその

ほかの植栽樹木が高さ3~10mほどに生長している(未発表データ)。これまでに確認されていなかった3種がほぼ同時期に確認され、コサメビタキについては複数個体確認されており、河北潟にこれらの生息可能な環境が生じていることを示唆するものである。河北潟は、水鳥や猛禽類の重要な生息地として知られるが、近年の河北潟干拓地や湖岸の樹木の生長により、森林性の鳥類も生息に適した環境となりつつある可能性が考えられる。今後、森林性の鳥類の渡りの中継地としての役割にも注目していく必要があると思われる。

## 謝辞

これまでの河北潟における鳥類の記録として、塩嶋保二氏に情報提供のご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

## 引用文献

- 川原奈苗・永坂正夫・白井伸和・高橋久. 2007. 河北潟の沿岸帯の植生Ⅱ－主に津幡川河口域周辺について－. 河北潟総合研究. 10: 7-13.
- 川原奈苗・白井伸和・高橋久. 2008. 河北潟の沿岸帯の植生Ⅲ－主に森下川河口域周辺について－. 河北潟総合研究. 11: 1-6.
- 川原奈苗・高橋久. 2009. 河北潟の沿岸帯の植生Ⅳ－新宇ノ気川河口域周辺について－. 河北潟総合研究. 12: 1-6.
- 川原奈苗・高橋久. 2010. 河北潟の沿岸帯の植生Ⅴ－旧浅野川河口部から大根布膨張水門南東側の湖岸について－. 河北潟総合研究. 13: 25-31.
- 白井伸和・川原奈苗・高橋久. 2005. 河北潟の沿岸帯の植生－主に金腐川河口域周辺について－. 河北潟総合研究. 8: 23-30.
- 中川富男. 2013. 河北潟の鳥類リスト. 河北潟湖沼研究所(編). 「河北潟レッドデータブック」. p.152-155. 橋本確文堂.
- 中川富男・川原奈苗. 2017. 1963年から2017年5月までに河北潟で確認された鳥類の一覧. 河北潟総合研究. 20: 33-43.
- 中村正男・矢田新平・池永裕史. 2013. 石川県

の河北潟干拓地におけるヨーロッパムナグロ  
*Pluvialis apricaria* の本州初記録. 日本鳥学会誌,  
62(2) : 189-191.

日本野鳥の会石川. 2014. 2013年石川県鳥類リスト.  
平野賢次(編). 石川野鳥年鑑2013. 日本野鳥  
の会石川. 116p.

山本浩伸・桑原和之・竹田伸一・平田豊治・中川富男.  
2000. 河北潟の鳥類相. 我孫子市鳥の博物館調  
査研究報告. 8 : 1-23.

付録. 河北潟鳥類リスト追加記録種として確認された個体の写真.



写真1. 石川県・河北潟干拓地の堤外地の樹林帯（石川県河北郡内灘町湖西）で観察されたサンコウチョウ（2015年9月15日，撮影者：川原奈苗）.



写真2. 蓮湖渚公園の駐車場端の裸地（石川県河北郡内灘町）で観察されたハシグロヒタキ（2017年5月29日，撮影者：中川富男）.



写真3. 石川県・河北潟干拓地の堤内地の防風林帯（石川県かほく市湖北）で観察されたエゾビタキ（2016年9月21日，撮影者：川原奈苗）.



写真4. 石川県河北潟干拓地の堤外地の樹林帯（石川県河北郡内灘町湖西）で観察されたコサメビタキ（2015年9月15日，撮影者：川原奈苗）.